

旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
2024年11月24日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 禱		一 同
讃 美※	聖歌505「めぐみある主」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	聖歌418「あなたの罪あやまちは」	一 同
教会学校		牧 師
讃 美	聖歌150「わが目を開きて」	一 同
聖書朗読	創世記36:1-5	
奨 励	創世記の福音(第30回)	牧 師
主 題	「祝福への系図」	
讃 美	聖歌404「イエスは汝を呼び給う」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	聖歌379「主よ、このところを」	一 同
祝 禱※		牧 師
来週の箇所	使徒行伝第15章	

※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース

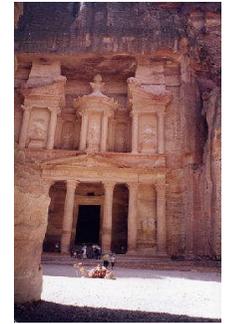


【今週の歩み】

11/24(日) 聖日礼拝
/25(月)
/26(火)
/27(水) 13:30 牧師祈り会
/28(木) 10: 祈り会 13: ヴァルジ集會
/29(金) 10-12: OBSカフェ
/30(土) 13-16子供オブ・ハウス

【祈りの課題】

- ① ホスピスの羽田さんの平安のために
- ② 礼拝に来れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように



《ペトラ遺跡》

「悪人正機 - 罪人の救済」

佐古純一郎著『パウロと親鸞』p.244-246

良書ハイライト

「善人なおもて往生をとぐ。いはんや悪人をや。しかるを、世の人つねにいはいく、悪人なを往生す、いかにいはいはんや善人をや。」つまり、阿弥陀如来が、有情(人間)はどうしても自分の力、自分のはからいでは生死を出離できそうにないと思ひ、そういう煩惱具足の有情を憐れんで下さり、そのお慈悲から四十八願の本願をおこし、ただ弥陀の名号を唱えて信じればよいという易行で往生させて下さる。だから、悪人こそ正客として招かれる。これが悪人正機です。

…ところでパウロは「私は義人を招くために来たのではなく、罪人を招くために来たのだ」というイエスの言葉を非常に大事にします。そしてその言葉、お約束は正しく受けるべき真理であるということを書いておられます。こういうところ、すなわち救済の現象的なすがたにおいては、親鸞の念仏、唯信のすがたを、特にパウロによって、私達に示される福音の信受のすがた、とは大変類似していると思ひます。だからこの点を取り上げて、しばしば福音信仰と浄土の念仏とは大変共通していると言われるわけです。

そういう問題を踏まえて、親鸞が「地獄は一定すみかさじ」と言う場合と、パウロは「私はなんとというみじめな人間なのだろう。この死のからだから、私を救うものは誰なのか」と嘆く、あの「死のからだ」とは、本質的に、かなり相違するのです。何故なら、親鸞の背景には創造という問題はありませんし、パウロの根底には、三界六道を輪廻するというような考え方は微塵もありません。これは明確にしておいてよい問題だと思ひます。

だから私は、本質的なところにおいて、キリスト教と仏教の比較ということではできないと思うわけです。宗教学ではそのようなことをしますが、本来宗教の領域では、比較ということ許さないので。比較しても意味はありません。

しかし、真実一途、信を徹底していく姿には、大変似たものを親鸞とパウロに見ることができます。ですから、親鸞が、この念仏こそ「未通りたる」とおっしゃって、念仏往生の道に徹しているという点から、私達は大変深い示唆を受け取るべきだと思ひます。

そしてまた、パウロと共に「私はなんとというみじめな人間なのだろう。この死のからだから私を救ってくれるのは誰なのか」という嘆きをますます深くしなければならぬでしょう。そうして初めて、パウロと共に、「されど主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな」(ローマ7:25)という感謝の心が極まって来るのではないのでしょうか。この問題をパウロについて言うならば、もともとイエスご自身が、ガリラヤ湖のほとりで、取税人のマタイをお召しになった時、「健康な人のために医者があるのではなく、病める人のために医者があるように、私は義人を招くために来たのではなく、罪人を招くために来たのだ」(ルカ5:31,32)とおっしゃった、ということなのです。